

「環境と品質は会社経営の両輪」

次の事業の柱：環境関連商品の開発・市場導入も本格化

株式会社田原電機製作所（本社：東京都府中市 田原博社長 創業昭和11年 従業員98名 <http://www.tahara.co.jp/>）は、工場・プラント向け制御監視システム、受配電システムの設計・製作及び各種電子制御ユニットの開発・製造を主な事業としています。昭和40年には電設資材展で大阪府知事賞を受賞。昭和52年には日本初のマイクロコンピュータ使用自動車トンネル用監視盤を開発。平成19年には太陽電池アレイチェッカーを開発するなど、高度な技術力と先進性を持った技術・製品・サービスを開発し提供しています。本社工場は、平成14年に日本配電制御システム工業会（J S I A）の優良工場認定を取得。2007年エコステージ1を導入し、2008年6月にエコステージ1の認証を取得しました。専務取締役 営業本部長 田原一樹氏に取り組み状況などについてお聞きしました。
<エコステージ導入のきっかけと、目的をお教え下さい。>

田原氏：数年前から社長が、「環境と品質は会社経営の両輪」ということ言われ、全社的に環境保全活動を行って来ました。そんな中、最近、多くのお取引先様から環境マネジメントシステムの構築を求められるようになってきました。当初は ISO14001 の取得を計画していたのですが、エコステージの自社の体力に合わせてステージアップできること、認証取得費用が ISO14001 と比べて安いこと、そして、このマネジメントシステム構築により自社の経営改善が図れることも期待し導入を決めました。

<具体的な活動内容を教えてください。>

田原氏：次の項目を重点テーマとして取り組んでいます。

- ①省エネルギー、省資源の推進
- ②リサイクルの推進による廃棄物の削減
- ③5S活動の推進
- ④環境にやさしい製品の提供
- ⑤ミス・不良「ゼロ」活動の推進

①、②、③は俗に言う「紙・ゴミ・電気」の部類であり、従来から取り組んでいたものを更に目標を高めての活動です。エコステージ導入時から、特に④と⑤がより本業に密着し高い効果が望めるので力を入れています。

<現時点で、エコステージ導入による変化や、具体的な効果はございましたか？>

田原氏：①新たに導入する目標管理（目的・目標、年度計画及び実施状況レビュー書）の仕組みを IT 化させたシステムができ、段階的に発生する集計・入力作業のための PC 操作手順書も用意でき、誰もがミスなく作業できる環境が整えられたこと。②重点管理項目に関しても全て手順書が作成され、これらを教材とした教育が実施できるようになりました。

<活動の中で、ご苦労された点・難しかった点などがございましたか？>

田原氏：若手を意識的に環境管理委員会メンバーにしたことにより、本来業務以外にも責任と権限を持つようになり、それぞれの改善意欲が高まり、密度の高い活動で質の高いシステムができたと思います。しかし、出張などが重なり環境活動に従事できない期間が発生し、ピンチヒッターを立てなければならぬなど、本業との調整に苦労した時期もありました。

<それでは、今後の取り組み計画をお聞かせ下さい。>

田原氏：環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、健全な環境を次世代に引き継ぐことが私たちの責務であると考え、全ての事業活動で発生する環境負荷の低減をはかるとともに、より積極的に環境関連商品の開発・市場導入を図りたいと思っています。そのためにも環境経営を推進するツールとしてエコステージによる継続的改善を行っていきます。



田原社長によるエコステージキックオフ宣言



熱の入った環境管理委員会



太陽電池アレイチェッカー